

久留米市在宅介護実態調査 調査結果報告書

平成 29 年 3 月

久 留 米 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	調査項目	1
6	回答者の属性	1
7	調査結果の表示方法	2
II	調査結果の概要	3
1	在宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制の検討	3
2	仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制の検討	8
3	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービス提供体制の検討	16
4	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービス提供体制の検討	22
III	調査結果から見えてくる主な現状	29

I 調査の概要

1 調査の目的

平成30年度から平成32年度を実施期間とする「久留米市第7期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定において、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的として、国から示された調査項目をもとに、主に在宅で要支援・要介護認定を受けている方を対象として調査を実施しました。

本調査は認定データと関連付けた分析を行うことを前提として設計されており、通常のアンケート調査では把握が困難な、客観的なデータに基づいた分析等を行うことが可能となることを特徴としています。

2 調査対象

更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける在宅の要支援・要介護認定者

3 調査期間

平成29年1月4日から平成29年3月10日

4 調査方法

認定調査の機会を利用し、主な部分は調査員からの聞き取りにより実施

5 調査項目

- 認定調査員が聞き取りを行う概況調査と並行して調査票に転記を行う項目（A票・9問）
- 主な介護者又は本人が回答・記入する項目（B票・7問）

6 回答者の属性

○ 回答者の属性（性別×年齢）

		年齢							
		全 体	65歳未 満	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90歳以 上
性 別	全 体	415	5	22	20	66	111	112	79
		100.0	1.2	5.3	4.8	15.9	26.7	27.0	19.0
	男 性	137	2	12	7	24	42	34	16
		100.0	1.5	8.8	5.1	17.5	30.7	24.8	11.7
	女 性	278	3	10	13	42	69	78	63
		100.0	1.1	3.6	4.7	15.1	24.8	28.1	22.7

単位は上段：人、下段：%

○ 回答者の属性（性別×要介護度）

		要介護度								
		全 体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
性別	全 体	415	21	85	116	102	53	24	11	3
		100.0	5.1	20.5	28.0	24.6	12.8	5.8	2.7	0.7
	男性	137	6	12	42	47	19	8	2	1
		100.0	4.4	8.8	30.7	34.3	13.9	5.8	1.5	0.7
	女性	278	15	73	74	55	34	16	9	2
		100.0	5.4	26.3	26.6	19.8	12.2	5.8	3.2	0.7

単位は上段：人、下段：%

○ 回答者の属性（主な介護者の本人との関係）

	配 偶 者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	そ の 他	無 回 答
全体	114	167	65	1	12	11	10
	30	43.9	17.1	0.3	3.2	2.9	2.6

単位は上段：人、下段：%

○ 回答者の属性（世帯類型×要介護度）

	全 体	要 支 援 1・2	要 介 護 1・2	要 介 護 3 以上
単 身 世 帯	87	38	43	6
	100.0	43.7	49.4	6.9
夫 婦 の み 世 帯	105	22	55	28
	100.0	21.0	52.4	26.7
そ の 他	215	46	115	54
	100.0	21.4	53.5	25.1

単位は上段：人、下段：%

7 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

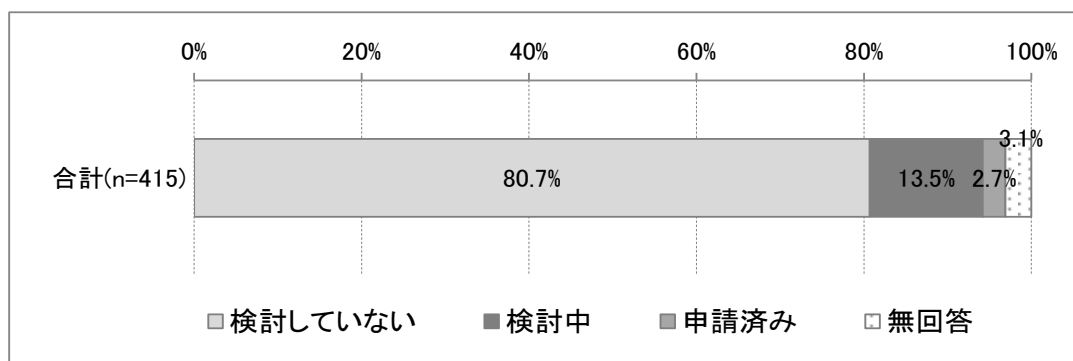
Ⅱ 調査結果の概要

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

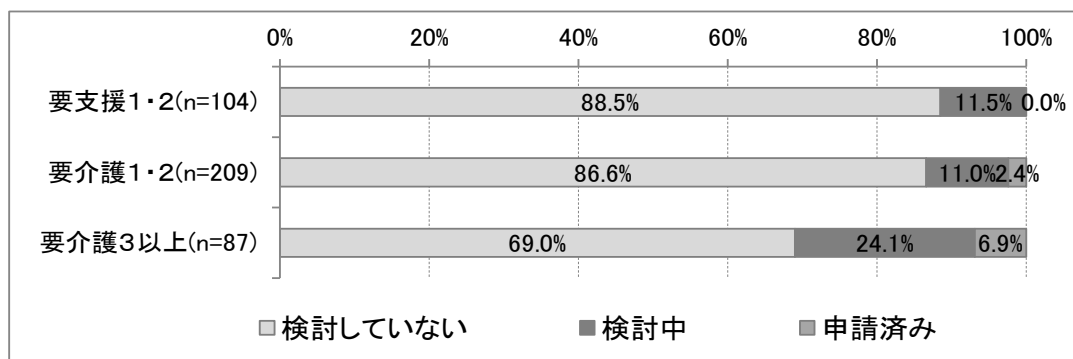
(1) 基礎集計

○ 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています。(図表 1-1～図表 1-3)

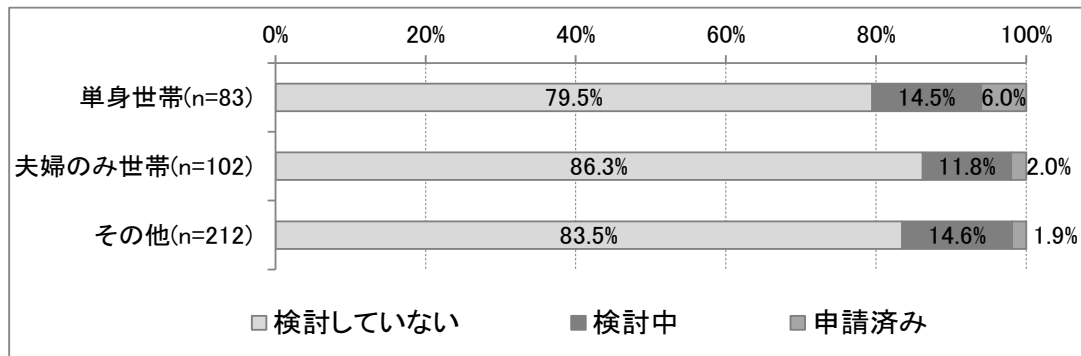
図表 1-1 施設等検討の状況



図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



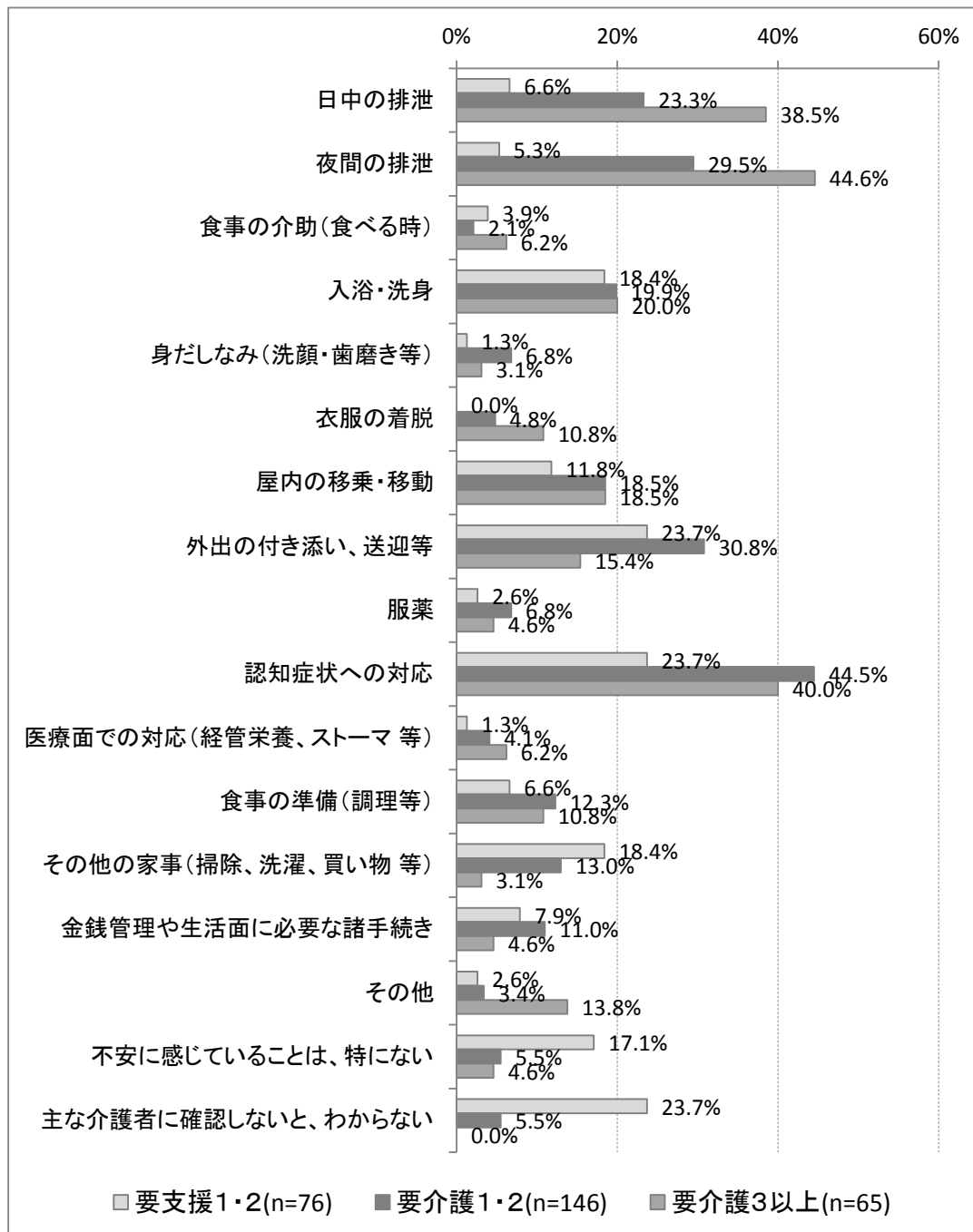
図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています。(図表 1-4)
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことであり、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。

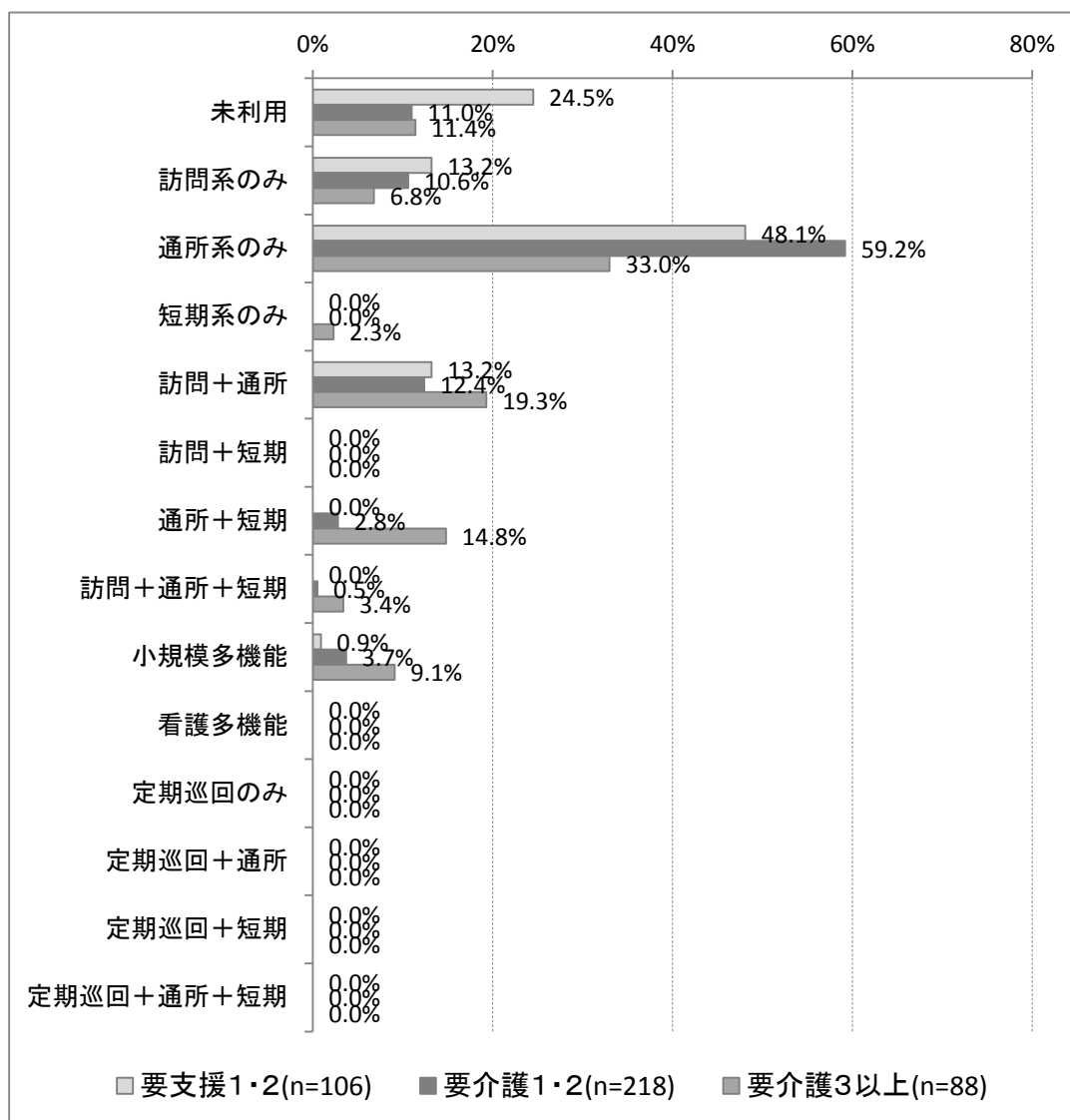
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



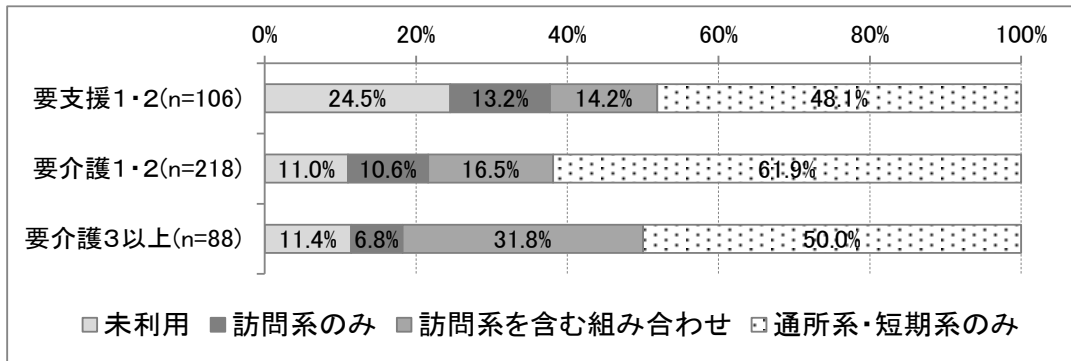
(3) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

- ここでは、要介護度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています。(図表 1-5)
- また、要介護度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています。(図表 1-6)
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」及び「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類(未利用を除く)に分類したものです。

図表 1-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



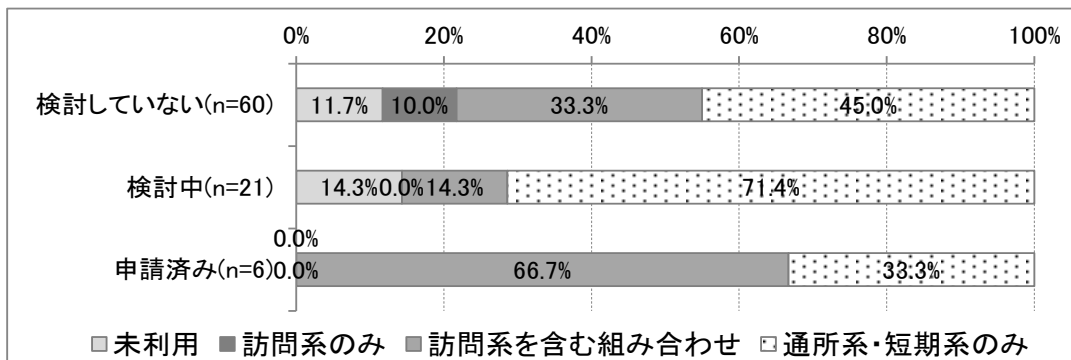
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



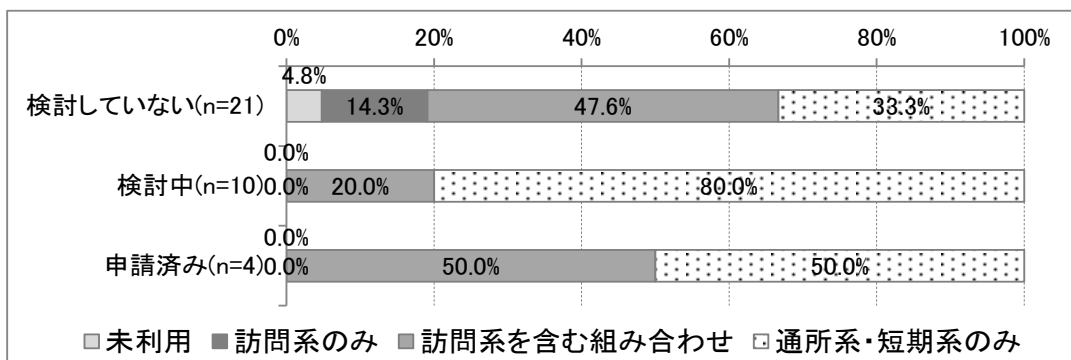
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上に分けて集計分析を行っています。

図表 1-7 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



図表 1-8 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



- 調査結果から見えてくる現状のまとめ
(在宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制の検討)

【現状】

- ・図表 1-1 の「施設検討の状況」は約 8 割が「検討していない」と回答しています。
- ・図表 1-2 では、「要支援 1・2」、「要介護 1・2」、「要介護 3 以上」の区分で、施設等検討の有無

を分析しており、「要介護 3 以上」では「要支援 1・2」「要介護 1・2」と比較して「検討中」及び「申請済み」の割合が高くなっています。

- ・ 図表 1-4 の「要介護度別・介護者が不安に感じる介護」では、「要支援 1・2」と比較して「要介護 1・2」と「要介護 3 以上」では「認知症への対応」や「日中・夜間の排泄」の割合が高くなっています。
- ・ 図表 1-5 の「要介護度別・サービス利用の組み合わせ」では、介護度の上昇に伴い、サービス単体の利用が減少し、「訪問+通所」や、「通所+短期」、「小規模多機能」など複合的なサービスを組み合わせる在宅生活を継続していることがわかります。
- ・ 図表 1-7～図表 1-8 は、「施設等の検討状況」別に「サービス利用の組み合わせ」（要介護 3、要介護 4 以上）を集計分析したものであり、施設等への入所を「検討中」の割合は、「通所系・短期系のみ」のサービス利用している者で高くなっており、要介護 4 以上ではより顕著になっています。

【現状のまとめ】

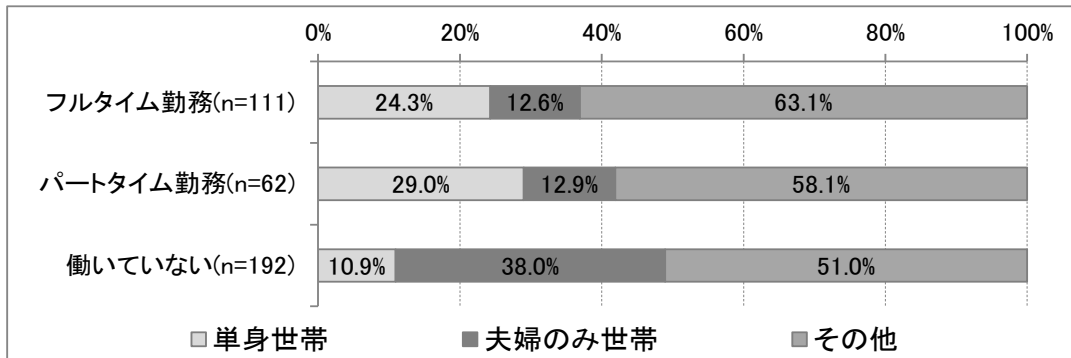
- ・ 介護度の上昇に伴い、施設入所を「検討中」と「申請済み」の割合が高くなっており、同時に「認知症への対応」や「排泄」への不安も多くなっています。
- ・ 同じく、介護度が高くなった場合には「通所系」サービスに加え、「訪問系」や「短期系」の組み合わせや「小規模多機能」の利用の割合も増えており、介護度の上昇に伴い、レスパイト機能をもつサービスの利用が増加していることがわかります。
- ・ 要介護 3 以上の者で、「通所系・短期系のみ」のサービスを利用している者について、施設入所を「検討中」の割合が高くなっています。

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

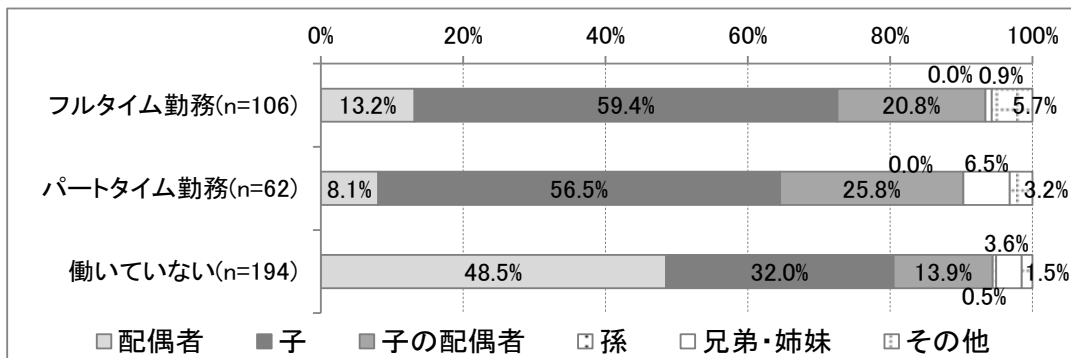
(1) 基礎集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者との関係、年齢や性別などの基礎的な集計を行っています。

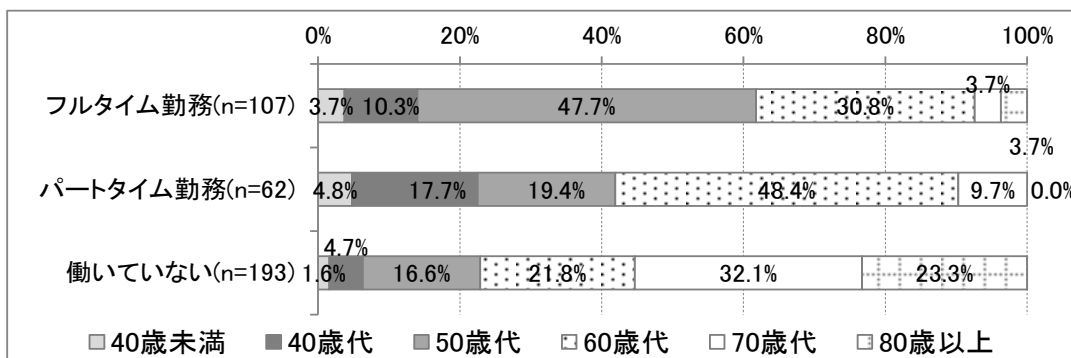
図表 2-1 就労状況別・世帯類型



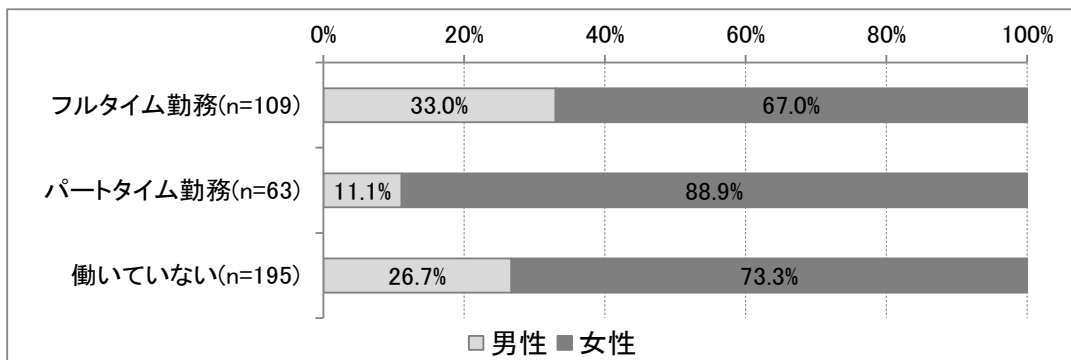
図表 2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係



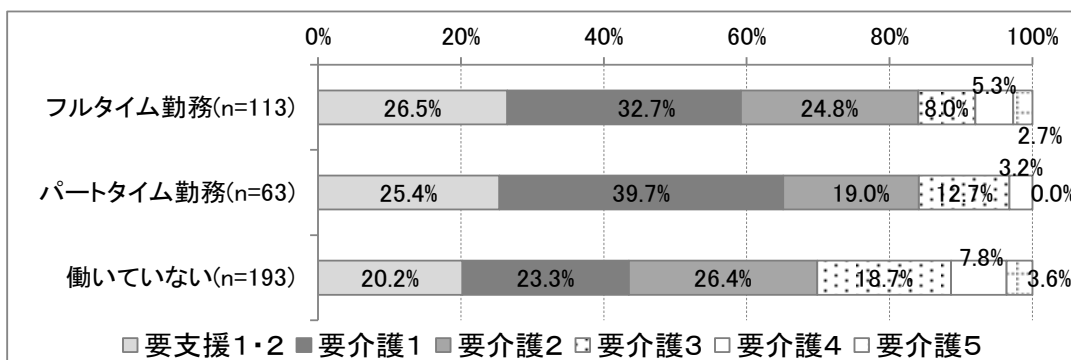
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



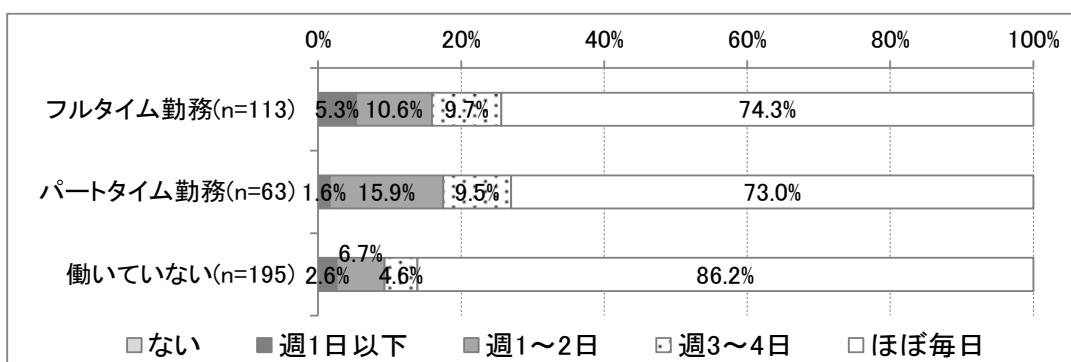
図表 2-5 就労状況別・要介護度



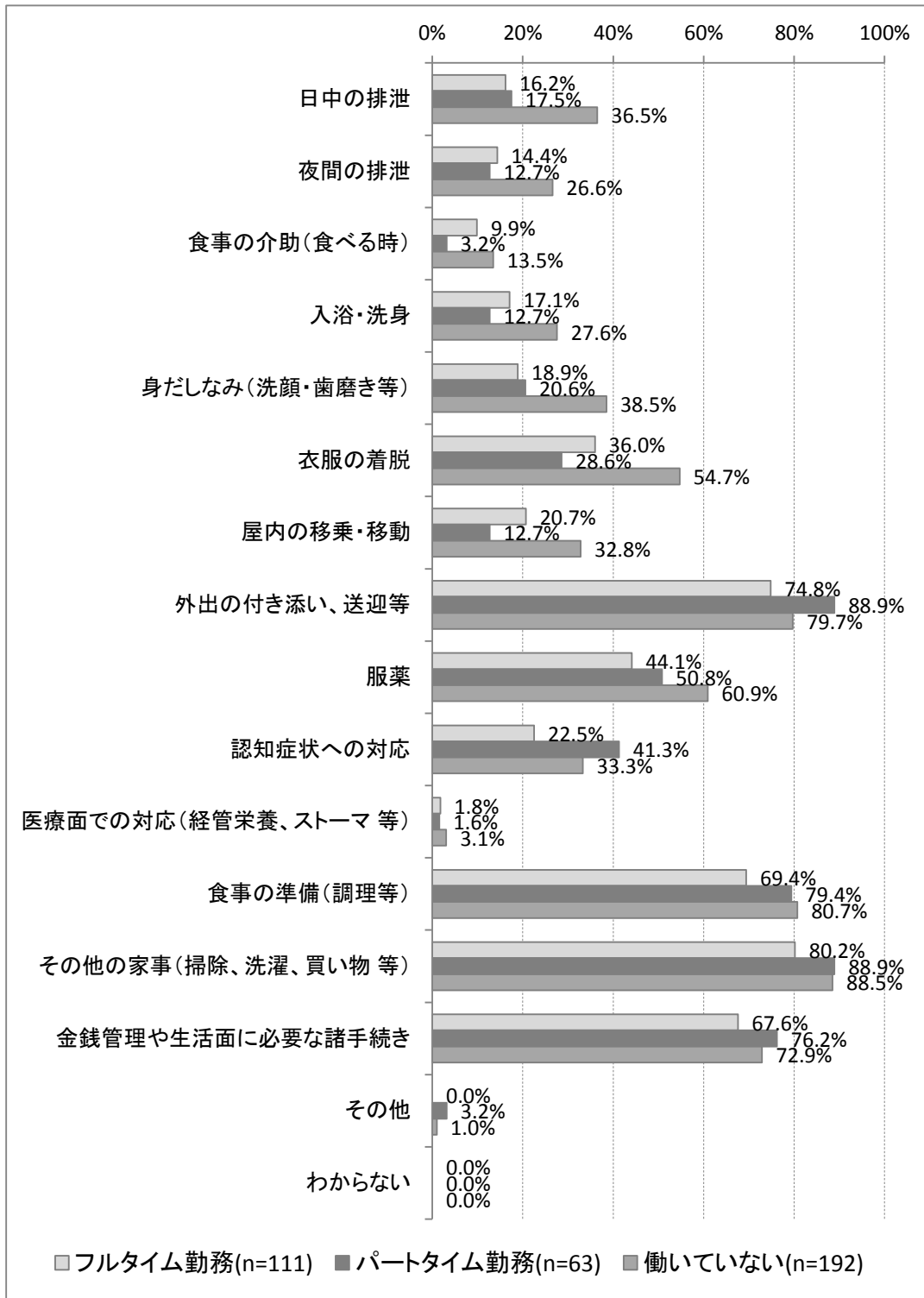
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析しています。(図表 2-7、図表 2-9)
- また、「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」別についても集計分析を行っています。(図表 2-10)

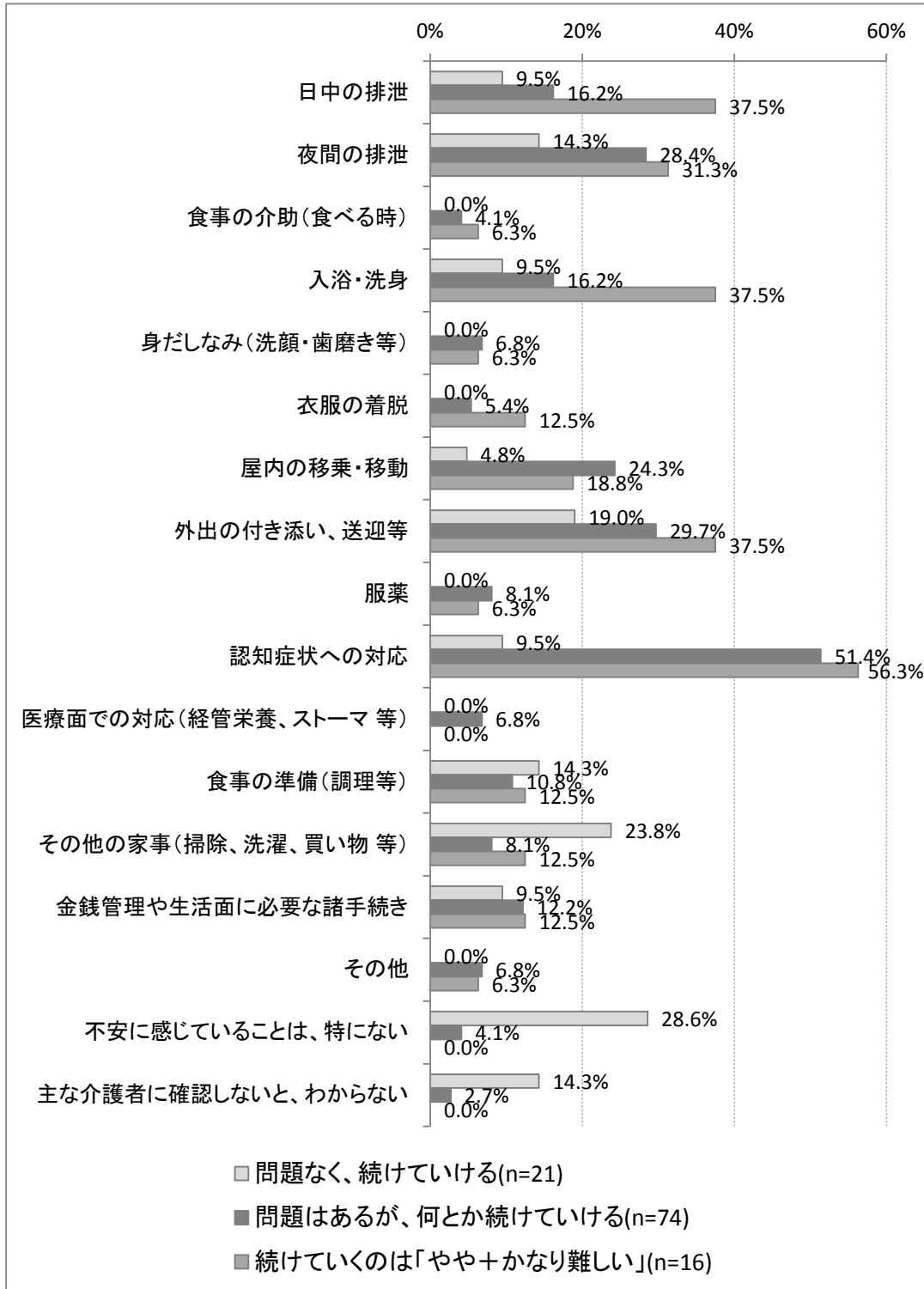
図表 2-6 就労状況別・家族等による介護の頻度



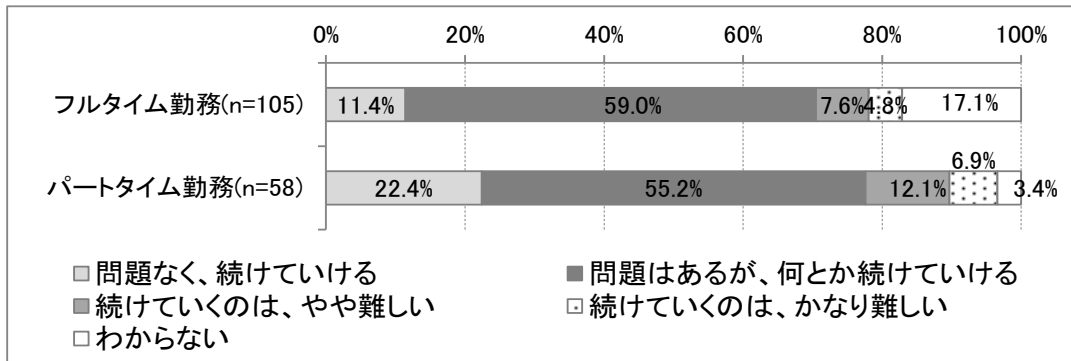
図表 2-7 就労状況別・主な介護者が行っている介護



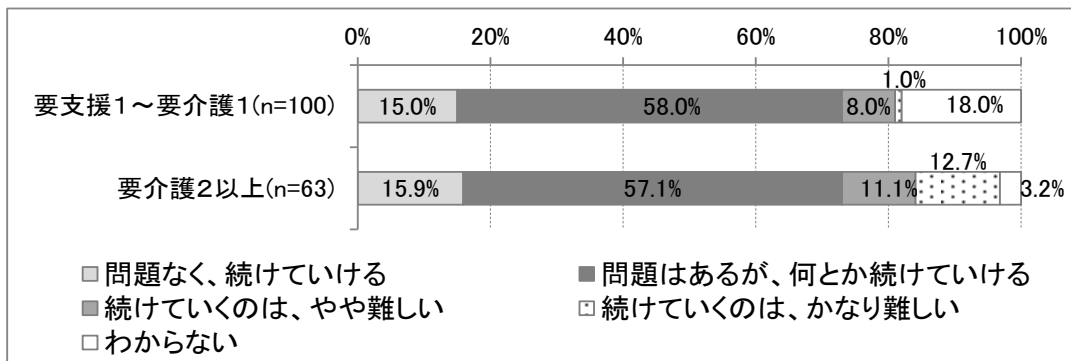
図表 2-8 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護



図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



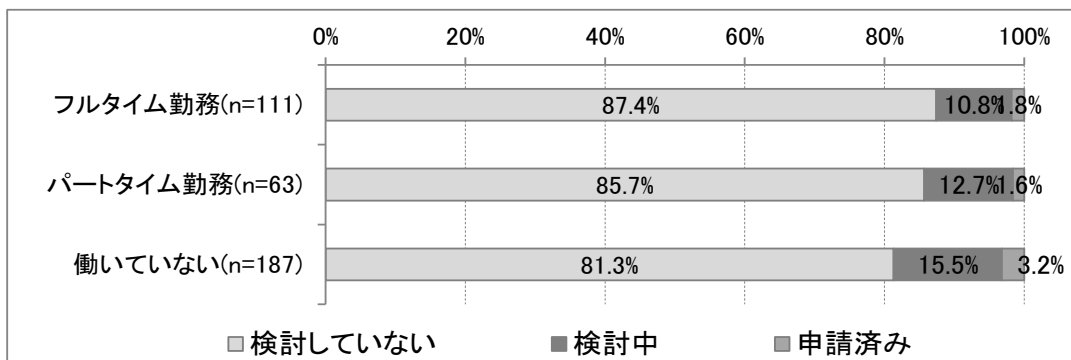
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み



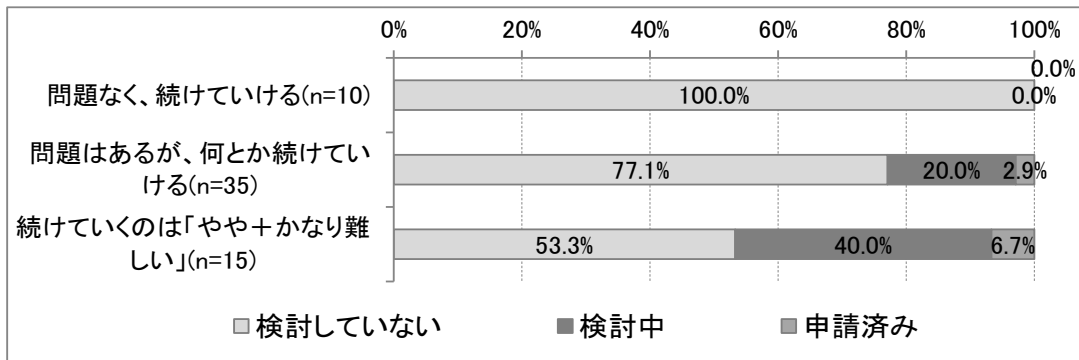
(3) 就労状況別の施設等検討の状況

- ここでは、「施設等検討の状況」について就労状況別に集計を行っています。(図表 2-11)
- 要介護2以上の方については、就労継続見込み別の「施設等検討の状況」について集計を行っています。(図表 2-12)

図表 2-11 就労状況別・施設等検討の状況



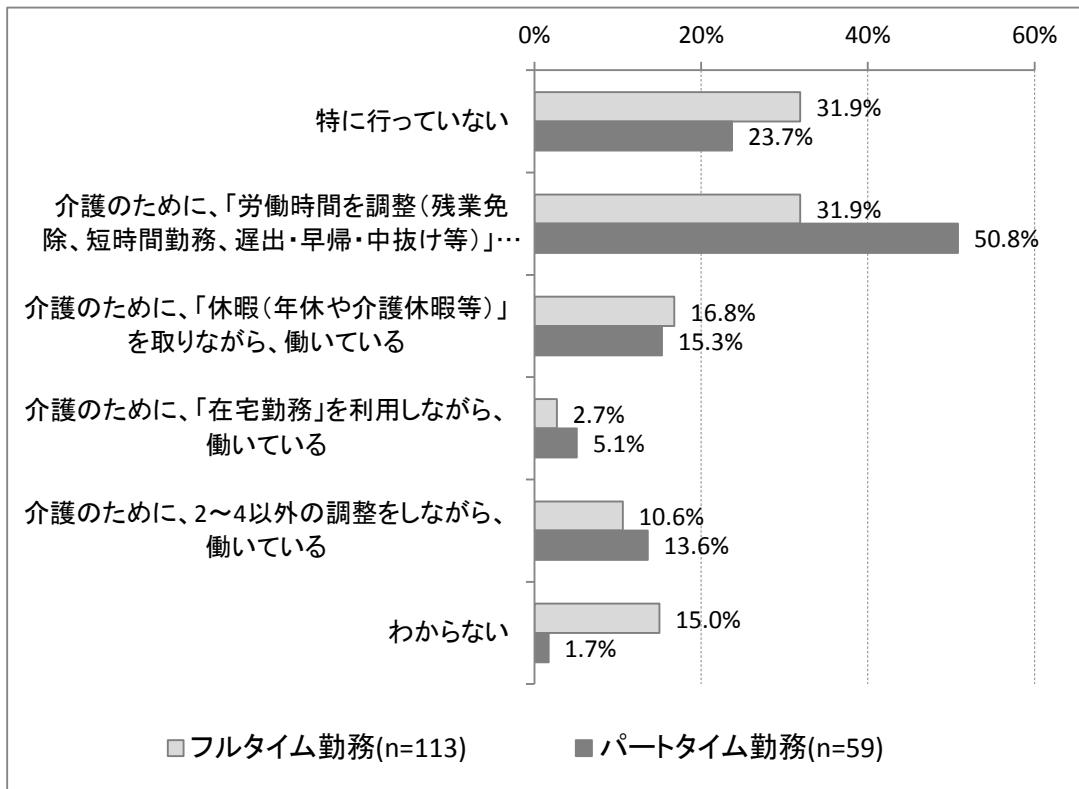
図表 2-12 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上）



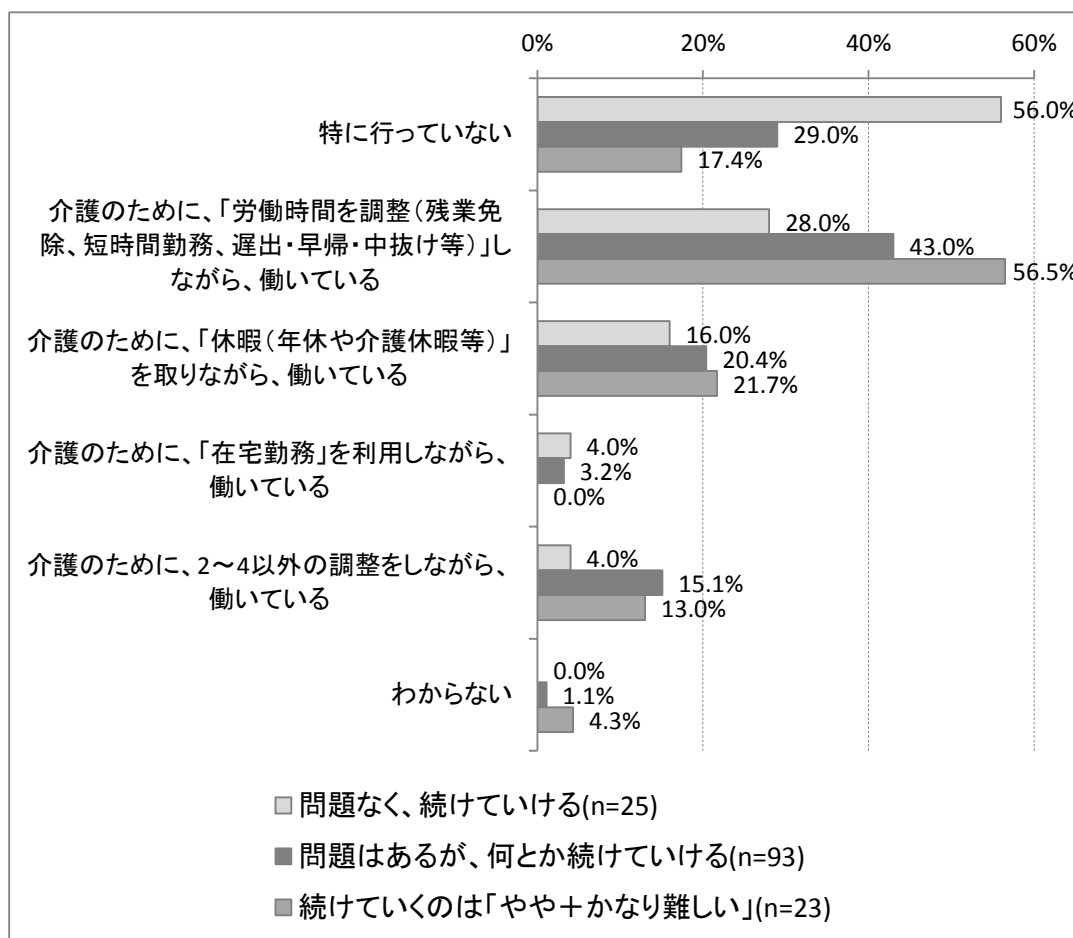
(4) 就労状況別の、介護のための働き方の調整

- ここでは、「介護のための働き方の調整」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析しています。（図表 2-13～図表 2-14）

図表 2-13 就労状況別・介護のための働き方の調整



図表 2-14 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整



○ 調査結果から見えてくる現状のまとめ

(仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制の検討)

【現状】

- ・図表 2-1 の「就労状況別・世帯類型」では、主な介護者の勤務形態を集計分析したものであり、「単身世帯」と「その他」では「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」の割合が高く、「夫婦のみ世帯」では、比較的「働いていない」の割合が高くなっています。
- ・図表 2-2～図表 2-3 は就労状況別に「主な介護者の本人との関係」と「年齢」を集計分析したものであり、勤務形態別の主な介護者と本人の関係は「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」では「子」が多い一方で、「働いていない」では「配偶者」の割合が多く、その中でも 70 歳代以上の割合が 5 割を超えています。
- ・図表 2-4 では主な介護者の性別を集計しており、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」「働いていない」に関わらず「女性」の割合が高くなっており、特に「パートタイム勤務」では 9 割近くとなっています。
- ・図表 2-5 の「就労状況別・要介護度」では本人の介護度と主な介護者の就労状況を分析しており、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」では、本人の介護度が要支援 1・2 と要介護 2 の合計が 50%以上に対し、介護者が「働いていない」場合では、要介護 2 以上の介護度の高い割合が 50%以上となっています。
- ・図表 2-6 の「就労状況別・家族等による介護の頻度」について、「フルタイム勤務」と「パ

ートタイム勤務」、「働いていない」の全てで、介護の頻度は「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっています。

- ・ 図表 2-7 の「就労状況別・主な介護者が行っている介護」については、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」、「働いていない」の全てで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く、「パートタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」も同率で高くなっています。「フルタイム勤務」についても、「外出の付き添い、送迎等」が次に高く、「働いていない」では「食事の準備」の割合も高くなっています。
- ・ 図表 2-8 「就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護」については、「問題なく、続けていける」では「不安に感じていることは、特にない」が最も高く、「問題はあるが、何とか続けていける」と「続けていくのはやや+かなり難しい」では「認知症への対応」が最も高くなっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が次いで高く、「続けていくのはやや+かなり難しい」では「外出の付き添い、送迎等」、「日中の排泄」、「入浴・洗身」の割合も高くなっています。
- ・ 図表 2-9～図表 2-10 では「就労状況別・就労継続見込み」と「要介護度・就労継続見込み」では「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」いずれも「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高いものの、介護度別の結果では「要介護 2」以上で「続けていくのは、かなり難しい」の割合がやや高くなっています。
- ・ 図表 2-11 では、「就労状況別・施設等検討の状況」を分析しており、「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」、「働いていない」の全てで「検討していない」の割合が高くなっていますが、「検討中」と「申請済み」の合計の割合は、「働いていない」が比較的高くなっています。
- ・ 図表 2-12 では、「就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護 2 以上）」を分析しており、在宅での介護を「続けていくのはやや+かなり難しい」と回答した者のうち、4 割以上で施設入所を「検討中」若しくは「申請済み」となっています。
- ・ 図表 2-13 では、「就労状況別・介護のための働き方の調整」の分析を行っており、「フルタイム勤務」では、「特に行っていない」と「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」が同率で最も高く、「パートタイム勤務」では、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」が 5 割以上と最も高くなっています。
- ・ 図表 2-14 では、「就労継続見込み別・介護のための働き方の調整」の分析を行っており、在宅での介護を「問題なく、続けていける」で、働き方の調整は「特に行っていない」が最も高く、「問題はあるが、何とか続けていける」と「続けていくのはやや+かなり難しい」では、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」が最も高くなっており、特に「続けていくのはやや+かなり難しい」では 5 割以上となっています。

【現状のまとめ】

- ・ 主な介護者の勤務形態に関わらず、主な介護者と本人の関係では、娘や妻などの「女性」により介護されていることが多く、介護者が「働いていない」場合では、高齢の配偶者により介護されている割合が高くなっています。
- ・ 主な介護者が行っている介護では、全ての勤務形態で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く「夫婦のみ世帯」と「その他」の世帯種別では、介護の頻度が「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。

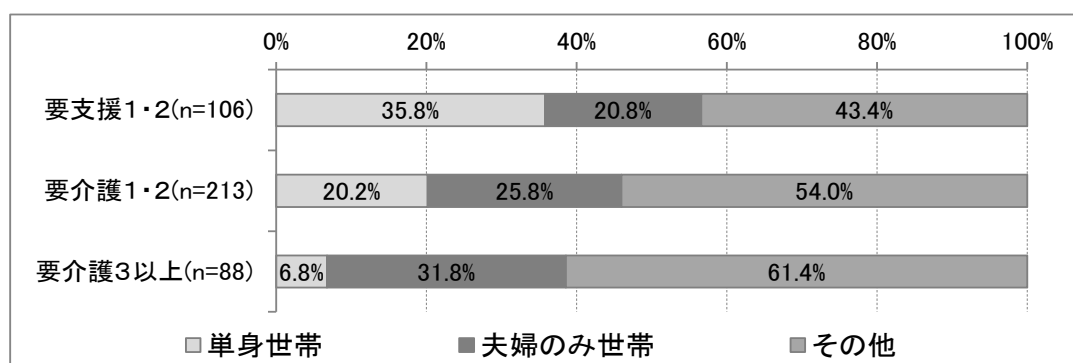
- ・就労見込み別に分析した介護の継続について、「問題はあるが、何とか続けていける」と「続けていくのはやや+かなり難しい」と回答した者では、今後の介護について特に「認知症への対応」に不安を持っていることがわかります。
- ・今後の就労の継続について、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」いずれも「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高いものの、介護度別の結果では「要介護 2」以上で「続けていくのは、かなり難しい」の割合がやや高くなっています。
- ・就労見込み別に分析した介護の継続について、「問題はあるが、何とか続けていける」と「続けていくのはやや+かなり難しい」と回答した者では、「残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等」などで労働時間を調整して勤務を継続していることがわかります。

3 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

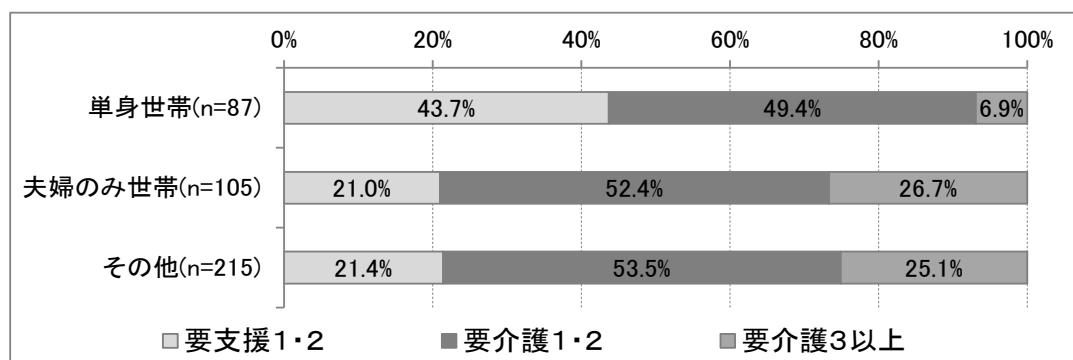
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」及び「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています。(図表 3-1、図表 3-2)

図表 3-1 要介護度別・世帯類型



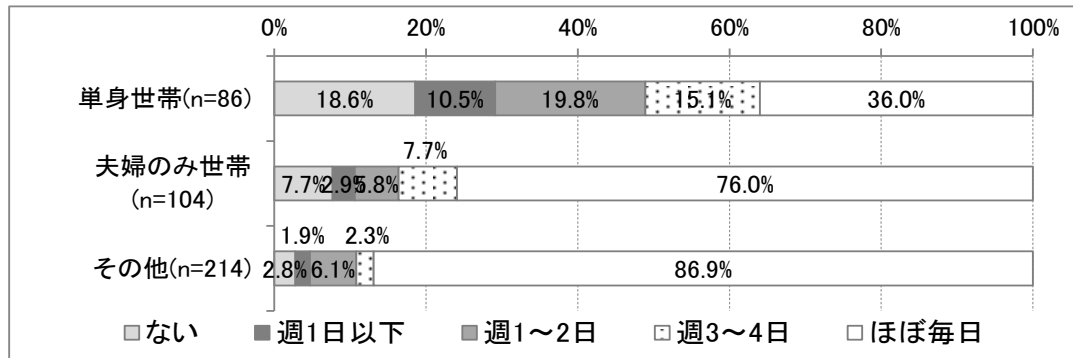
図表 3-2 世帯類型別・要介護度



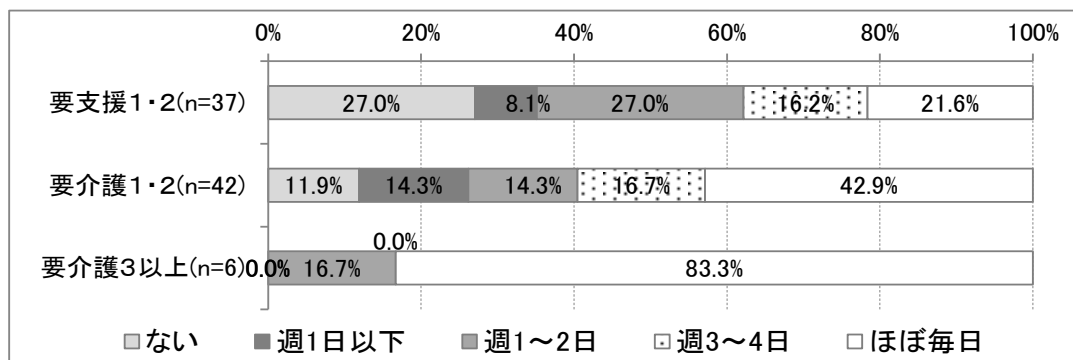
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

- 図表 3-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。
- 図表 3-4～図表 3-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。

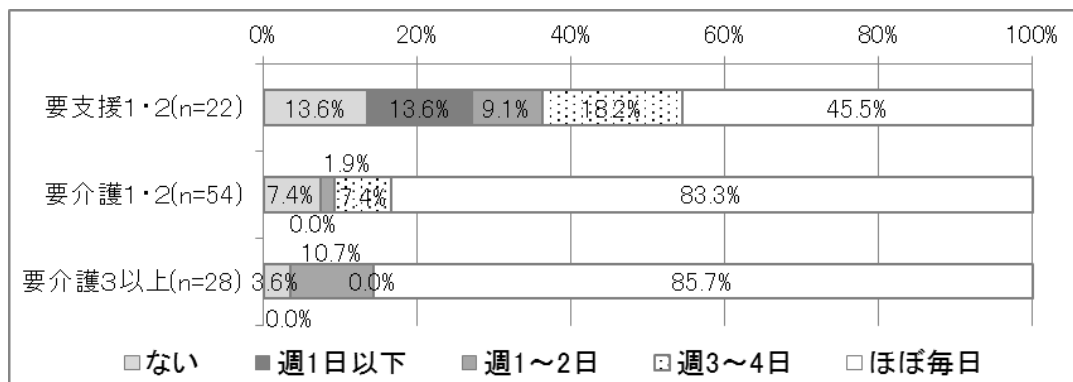
図表 3-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



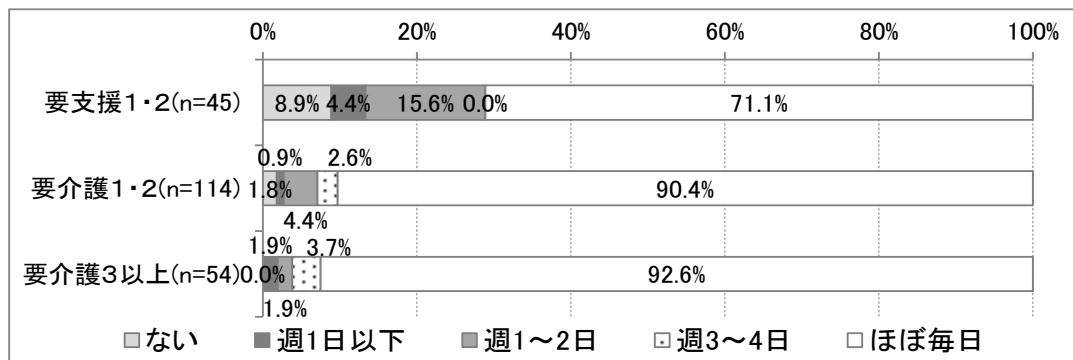
図表 3-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



図表 3-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



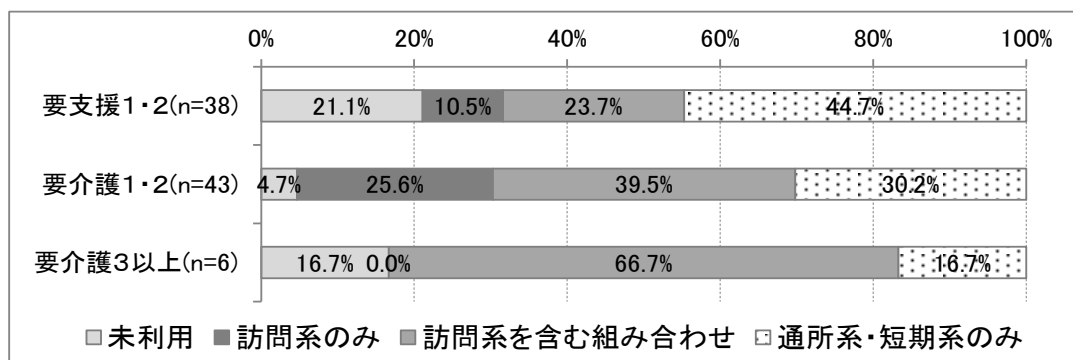
図表 3-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



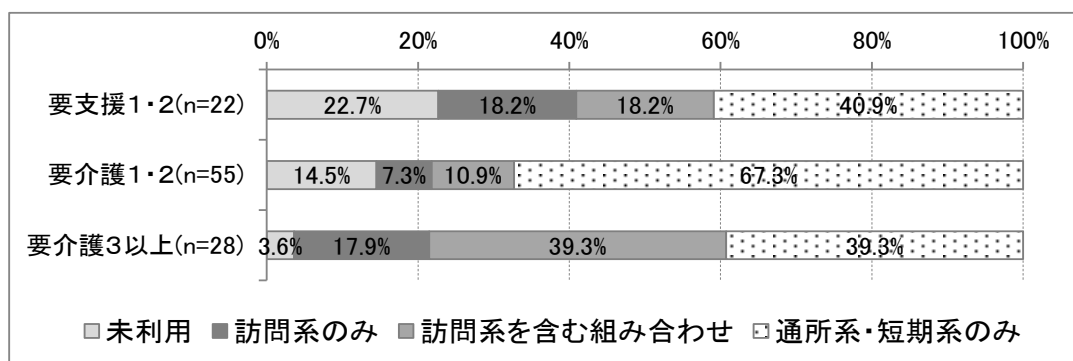
(3) 「要介護度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

- 要介護度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析しています。（図表 3-7～図表 3-9）
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」及び「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。

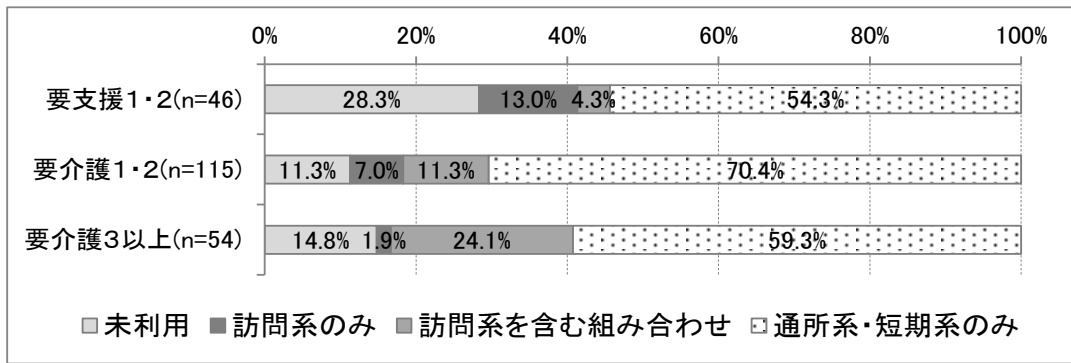
図表 3-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 3-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



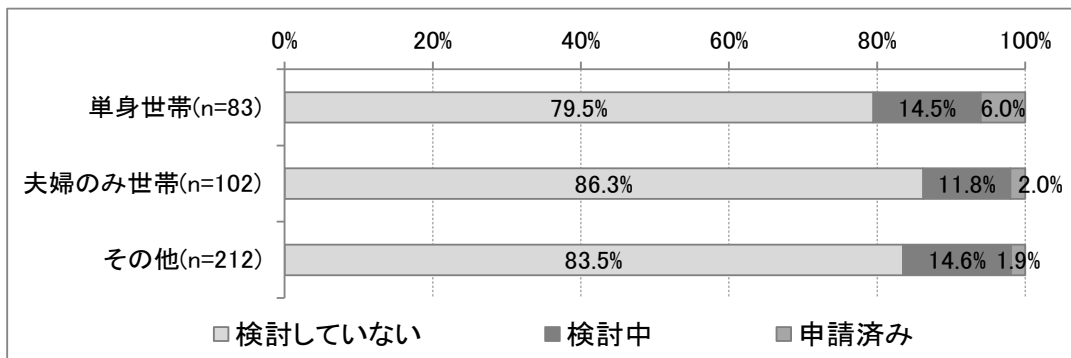
図表 3-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



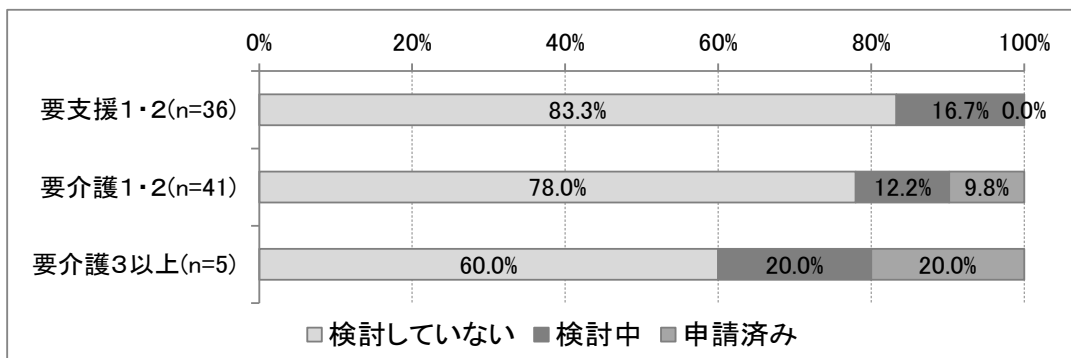
(4) 「要介護度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

- ここでは、「要介護度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています。(図表 3-10～図表 3-13)

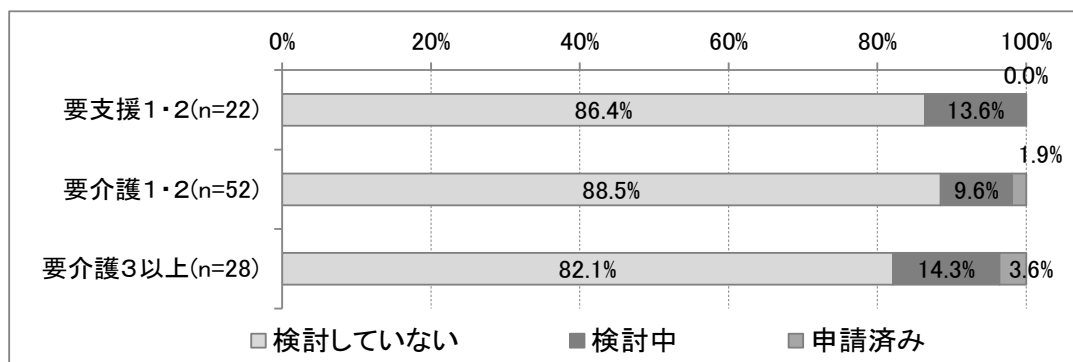
図表 3-10 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



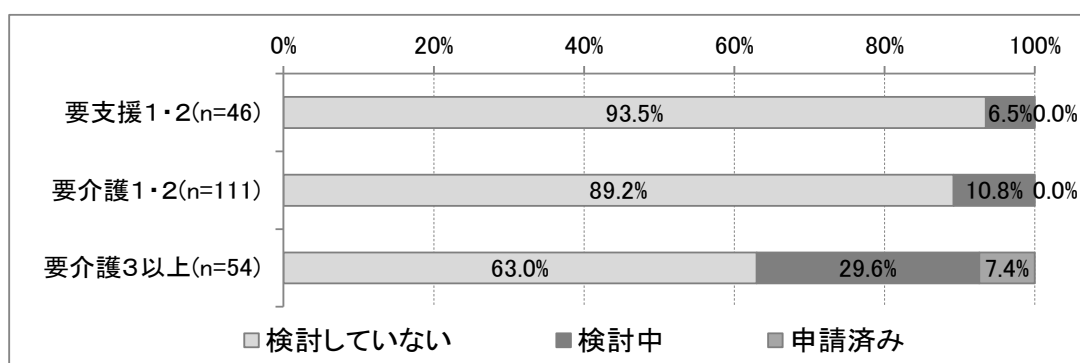
図表 3-11 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表 3-12 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表 3-13 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



○ 調査結果から見てくる現状のまとめ

（将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討）

【現状】

- ・図表 3-1 の「要介護度別の世帯タイプの割合」について、「要支援1・2」の世帯タイプは「単身世帯」と「夫婦のみの世帯」の合計割合が5割以上に対し、「要介護1・2」では4割強であり、「要介護3以上」では3割強と、介護度の上昇とともに単身や夫婦世帯など、高齢者のみの世帯の割合が減少しています。
- ・図表 3-2 の「世帯類型別・要介護度」では、「単身世帯」での要介護度は、「要支援1・2」と「要介護1・2」の合計が9割以上に対し、「夫婦のみ世帯」と「その他」では約7割半ばとなっています。
- ・図表 3-3 では、「単身世帯」の介護の頻度が「ない」、「週1日以下」、「週1～2日」、「週3～4日」の合計割合が6割以上に対し、「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が7割以上であり、「その他」でも8割以上となっています。
- ・図表 3-4～図表 3-6 の介護の頻度と介護度、世帯種別の関係について、「単身世帯」では「要支援1・2」で介護の頻度が「ない」から「週3～4日」が8割以上に対し、「夫婦のみ世帯」では5割半ばであり、「その他」では約3割となっています。また、「単身世帯」で「要支援1・2」

の者で介護の頻度が「ほぼ毎日」が約2割で、「要介護1・2」でも約4割に対し、「夫婦のみ世帯」では「要支援1・2」の「ほぼ毎日」が4割半ば、「要介護1・2」では約7割半ばであり、「その他世帯」では「要支援1・2」の「ほぼ毎日」の頻度が約7割、「要介護1・2」では約9割になっています。

- ・図表3-7の「要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）」では、「要支援1・2」で「通所系・短期系のみ」が最も高く、「要介護1・2」と「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が最も高くなっています。
- ・図表3-8の「要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）」では、「要支援1・2」と「要介護1・2」で「通所系・短期系のみ」が最も高く、「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」が同率で最も高くなっています。
- ・図表3-9の「要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）」では、「要支援1・2」と「要介護1・2」、「要介護3以上」全てで「通所系・短期系のみ」が最も高くなっています。

【現状のまとめ】

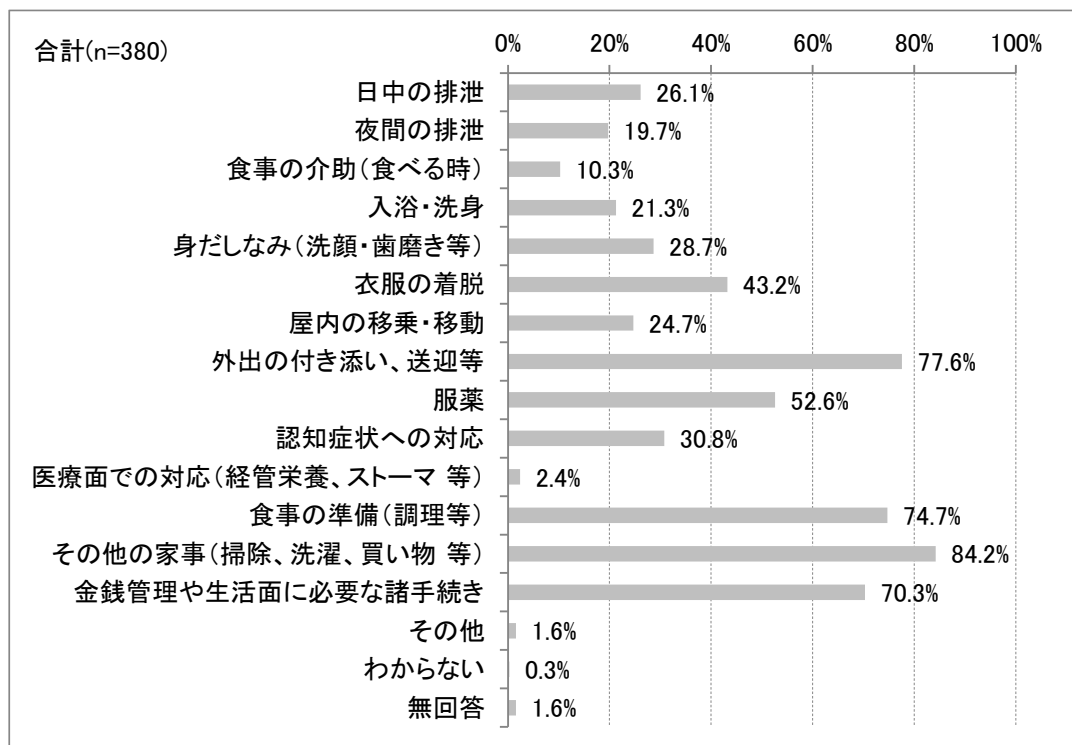
- ・要介護度を世帯類型別で見ると、「要支援1・2」では「単身世帯」の割合が35%以上ある一方、「要介護3以上」では「単身世帯」の割合が1割未満となっており、介護度の上昇に伴い単身での在宅生活の継続が困難となっている状況がうかがえます。
- ・「単身世帯」では介護の頻度が「ほぼ毎日」の割合が約3割半ばに対し、「夫婦のみ世帯」と「その他」ではそれぞれ7割以上、8割以上と高くなっています。
- ・「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」、「その他」と、世帯内での介護者が増えるに伴い介護の頻度が増加しています。また、介護度別にみた場合でも、比較的介護度が低い「要支援1・2」について「その他」では「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。
- ・「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」の「要介護3以上」で「訪問系を含む組み合わせ」の複数利用の割合が高くなっています。

4 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

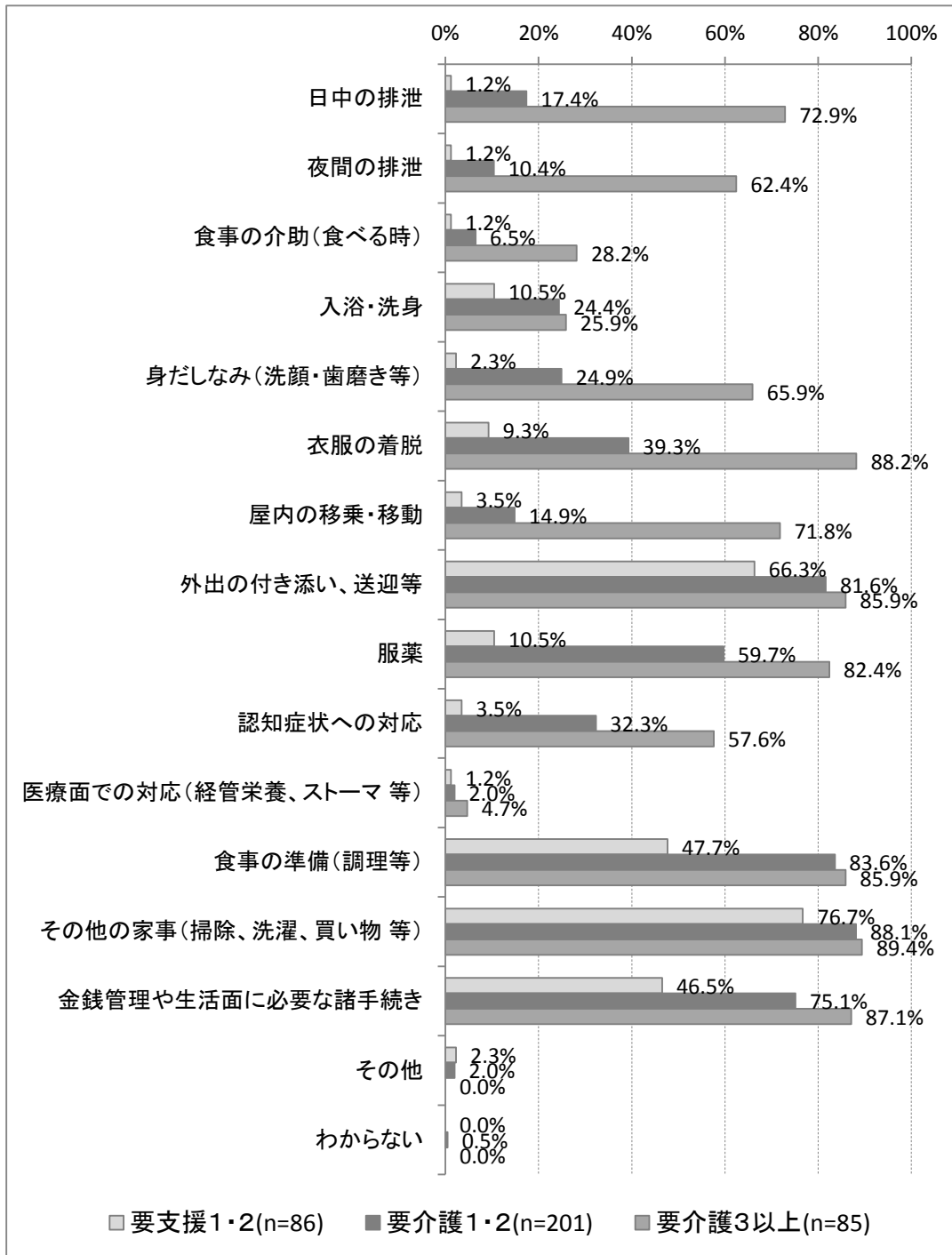
(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています。
(図表 4-1～図表 4-3)

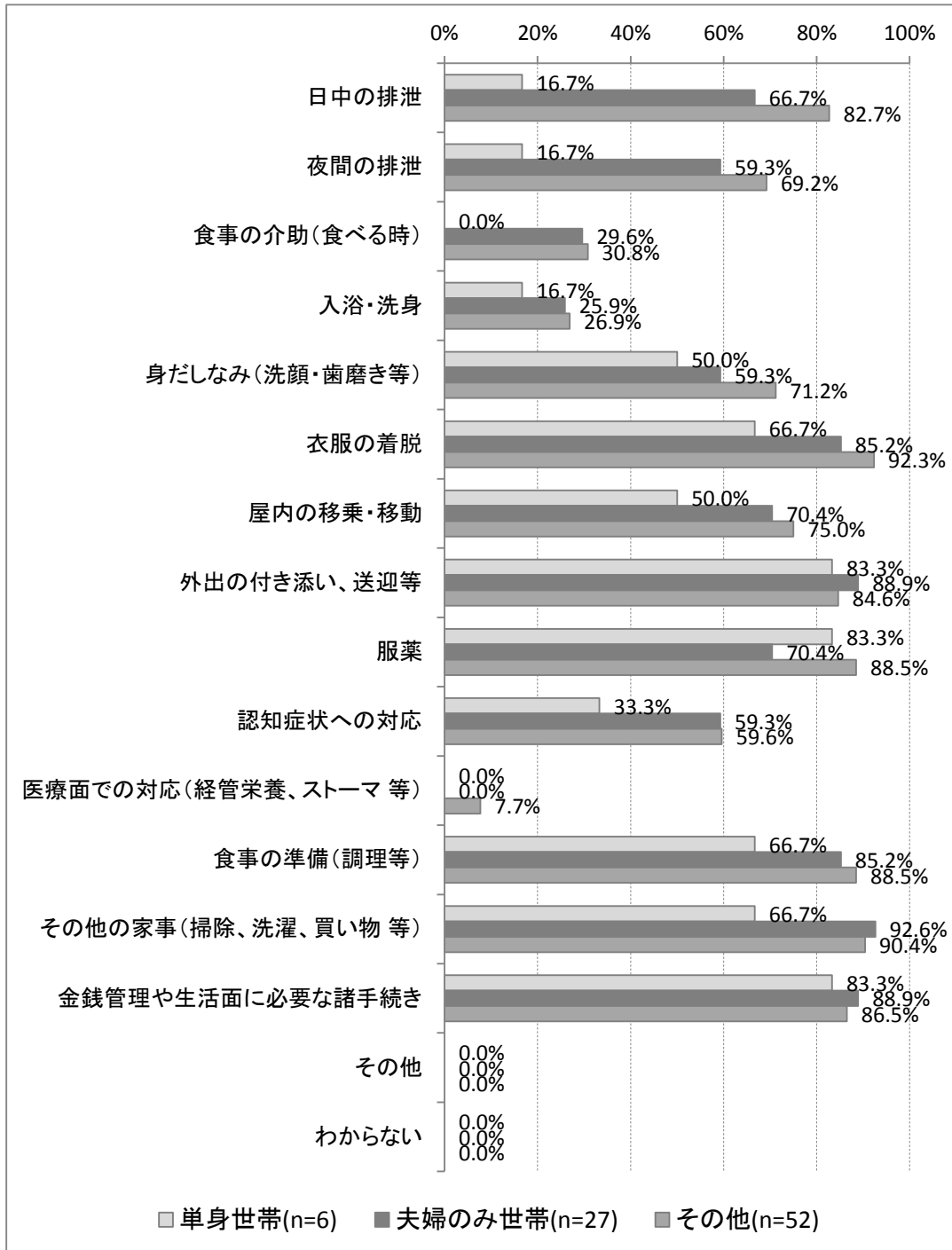
図表 4-1 主な介護者が行っている介護



図表 4-2 要介護度別・主な介護者が行っている介護



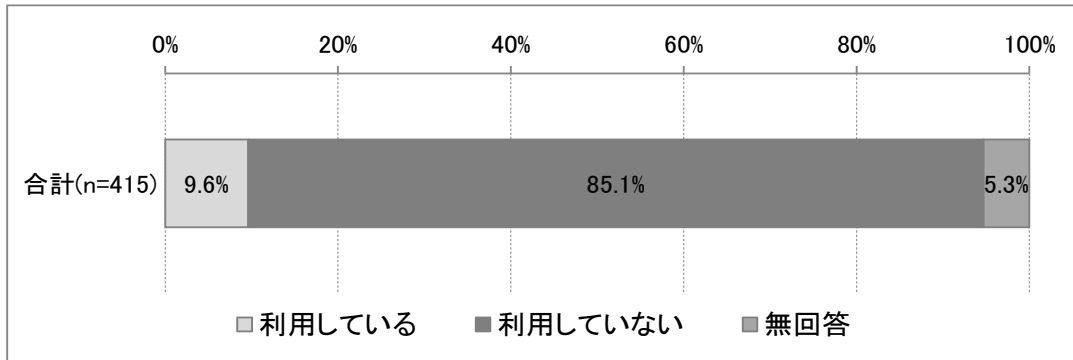
図表 4-3 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



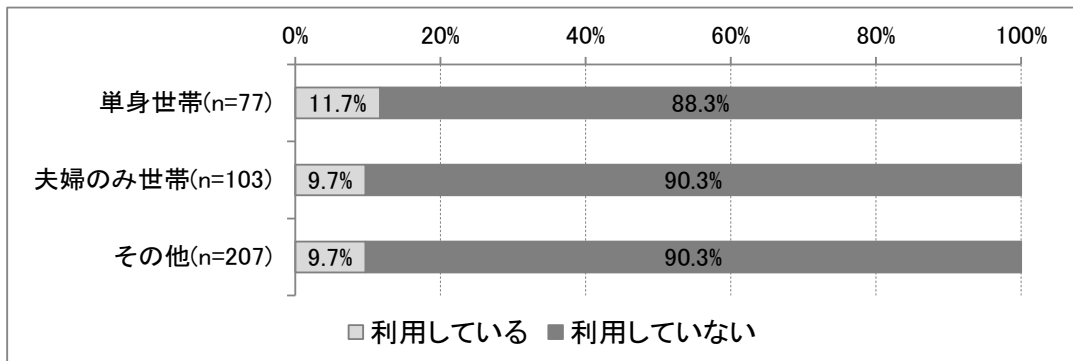
(2) 訪問診療の利用割合

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています。(図表 4-4～図表 4-6)

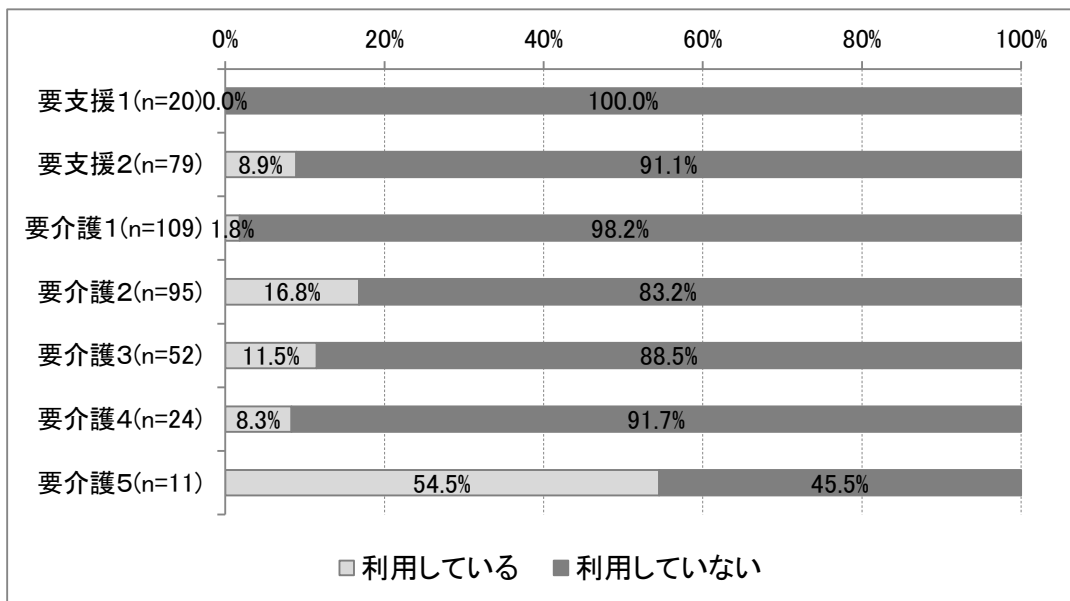
図表 4-4 訪問診療の利用の有無



図表 4-5 世帯類型別・訪問診療の利用割合



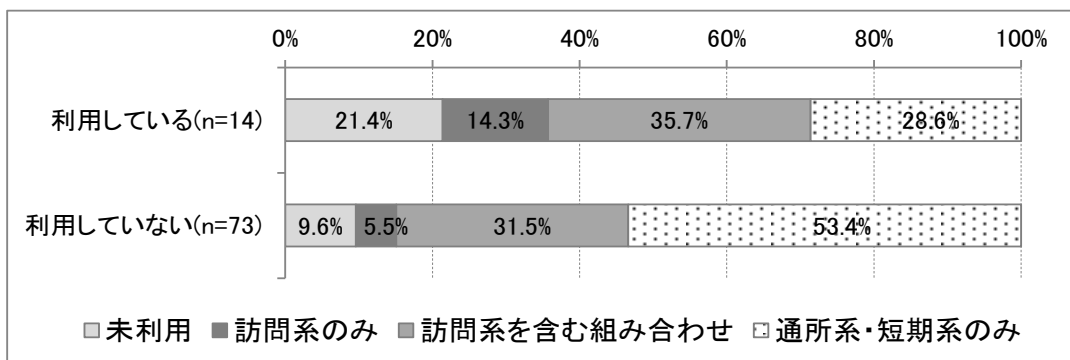
図表 4-6 要介護度別・訪問診療の利用割合



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の方の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています。(図表 4-7)

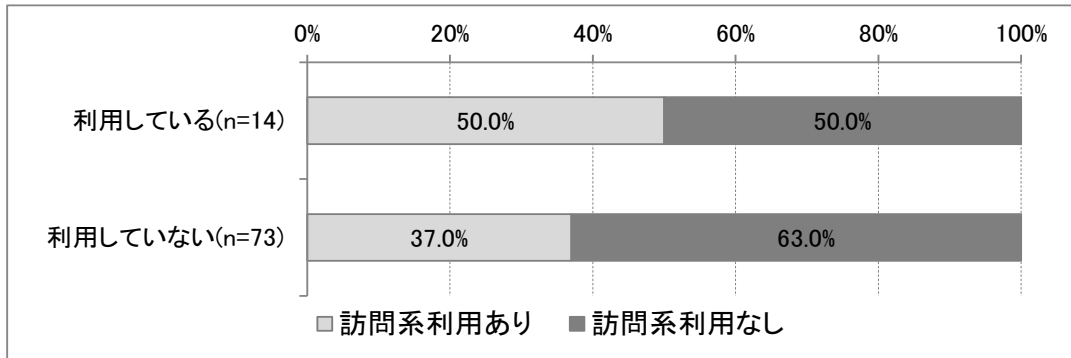
図表 4-7 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ (要介護3以上)



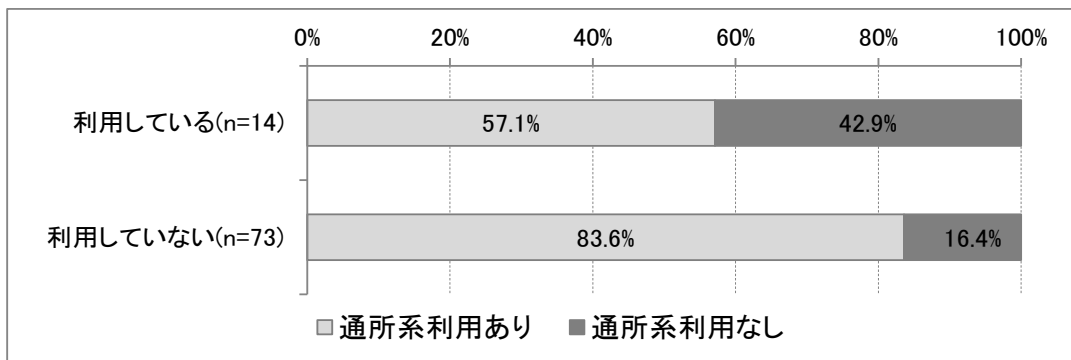
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の方について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています。(図表4-8～図表4-10)

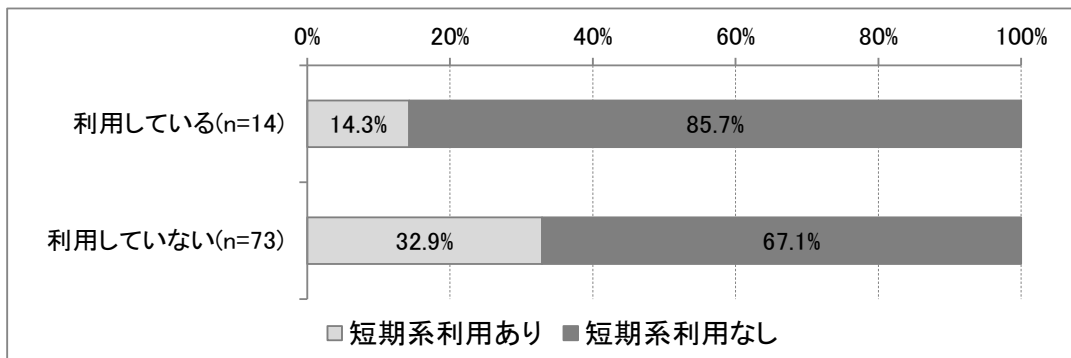
図表4-8 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



図表4-9 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



図表4-10 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



○ 調査結果から見えてくる現状のまとめ

(医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービス提供体制の検討)

【現状】

- ・ 図表 4-1 では、全ての介護度と世帯種別での「主な介護者が行っている介護」を分析しており、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の割合が高くなっています。
- ・ 図表 4-2 の「介護度別・主な介護者が行っている介護」では、「要支援 1・2」で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」となっており、「要介護 1・2」では、同じく「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が最も高く、次いで「食事の準備」となっています。また、「要介護 3 以上」についても「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が最も高く、次いで「衣服の着脱」が高くなっています。
- ・ 図表 4-3 の「世帯類型別・主な介護者が行っている介護」（※要介護 3 以上）では、「単身世帯」で「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「金銭監理や生活面に必要な諸手続き」が同率で最も高く、「夫婦のみ世帯」では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」と「金銭監理や生活面に必要な諸手続き」が同率で高くなっています。また、「その他」では、「衣服の着脱」が最も高く、次いで「服薬」と「食事の準備（調理等）」が同率で高くなっています。
- ・ 図表 4-4～図表 4-5 の「訪問診療の利用の有無」では、「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」、「その他」の全てで「利用していない」が高くなっています。
- ・ 図表 4-6 の「要介護度別・訪問診療の利用割合」では、要支援 1～要介護 4 について「利用していない」割合が 8 割～10 割に対し、要介護 5 では「利用している」が 5 割半ばになっています。
- ・ 図表 4-7 の「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ（要介護 3 以上）」では、介護サービスを「利用していない」が約 2 割いる他、「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」の合計割合が約 5 割となっており、「利用していない」では、「通所系・短期系のみ」が約 5 割となっています。
- ・ 図表 4-7～4-10 の「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の有無（要介護 3 以上）」では、訪問診療を「利用している」では比較的「訪問系利用あり」の割合が高く、「利用していない」では「通所系利用あり」と「短期系利用あり」の割合が高くなっています。

【現状のまとめ】

- ・ 在宅での介護は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が高いものの、「要介護 3 以上」の「単身世帯」では「外出の付き添い、送迎等」や「服薬」、「金銭監理や生活面に必要な諸手続き」の割合が高く、「その他」では「衣服の着脱」の割合が高くなっています。
- ・ 在宅での訪問診療の利用割合は、要支援 1～要介護 4 までは「利用していない」が 8 割以上となっている一方で、要介護 5 では 5 割半ばが「利用している」と回答しています。
- ・ 訪問診療を利用している者では、比較的「訪問系」の利用割合が高く、「利用していない」者では「短期系」の利用割合が高くなっています。

Ⅲ 調査結果から見えてくる主な現状

- ・ 介護度の上昇に伴い、施設入所を「検討中」と「申請済み」の割合が高くなり、「通所系」サービスに加え、「訪問系」や「短期系」の組み合わせや「小規模多機能」の利用の割合も増えています。
- ・ 今後の介護について、介護度の上昇と同時に「認知症への対応」や「排泄」への不安が多くなっています。
- ・ 要介護3以上の者で、「通所系・短期系のみ」のサービスを利用している者について、施設入所を「検討中」の割合が高くなっています。
- ・ 主な介護者と本人の関係では、娘や妻などの「女性」により介護されていることが多く、介護者が勤務していない場合では、高齢の配偶者により介護されている割合が高くなっています。
- ・ 常勤や非常勤、働いていないなどの全ての勤務形態で、介護の頻度が「ほぼ毎日」の割合が高く、内容は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高くなっています。
- ・ 今後の就労の継続について、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」いずれも「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高いものの、介護度別の結果では「要介護2」以上で「続けていくのは、かなり難しい」の割合がやや高くなっています。
- ・ 介護者が勤務している場合で、在宅介護に「問題を感じている」や「在宅介護の継続が困難」と回答した者では、「残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等」などで労働時間を調整し、介護を継続していることがわかります。
- ・ 世帯類型別の在宅介護の状況では、「要支援1・2」で高齢者のみ世帯が多い一方で、「要介護3以上」では「単身世帯」の割合が減少しています。
- ・ 「夫婦のみ世帯」と「その他世帯」では介護の頻度が「ほぼ毎日」の割合が高く、「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」の「要介護3以上」で「訪問系を含む組み合わせ」の利用割合が高くなっています。
- ・ 医療系サービスとの関係では、在宅での訪問診療の利用割合は、要支援1～要介護4までは「利用していない」が8割以上となっている一方で、要介護5では5割半ばが「利用している」と回答しており、訪問診療を利用している者では、比較的「短期系」の利用割合が低くなっています。

久留米市在宅介護実態調査 調査結果報告書

平成29年3月

発行：久留米市健康福祉部介護保険課

〒830-8520

福岡県久留米市城南町15番地3

TEL 0942-30-9036

FAX 0942-36-6845